

よって能登から来た久五郎、「能久」が屋号となつたとも考えられる。私は、それを裏付けるために、山中賢作（故人）の孫に当る人を介していろいろ親類の方たちに問い合わせてもらった。そしたら「能久」が正しいとの返事が返って来た。

また、「能久」の屋敷跡である嘉瀬村二七二番戸は、戸籍法の改正により大字嘉瀬字端山崎一七三番地となり、現在の本町花田製材所跡、小山内マロ宅地に当り、何代目かの久五郎の長男山中賢蔵が家督相続し、二男山中賢作が、端山崎一六三の二を大正六年に取得、大正五年に端山崎一六三の一を山中ふよに所有権移転登記されている。（山中賢作の跡は現在沢田政孝の妹テルが、山中ふよの跡は現在神島良逸の所有となっている。）こうしてみれば、「能久」の屋敷は、本町から冷水にかけての広大な土地を有しており、家も茅ぶき屋根の大きな家で、当時娯楽施設のない時代に、「金多、豆蔵の人形芝居」や「活動写真」がよく行われたのだと古老から聞いている。

はがき通信

今泉 小野 才八郎

〃灯、拜見。これほどのものをあなたひとりを出しているのは感服の至りです。大変なものだからね。「浪費」くせのない文章もいゝですね。ただちよいちよい太宰さんの真似の様なところがなければ。それから作品の首尾が一貫してゐない様です。太宰さんがいふ「人生は浪費だ」といふのは「明るさは滅亡のすがた」といふ「右大臣實朝」に出てくる言葉とつらなるのだし、何も真理とか原理とか諦観として入ってゐるのではなく人の心理の矛盾、幻惑を指してゐるのだと思ひます。

どんな人でも金をためこんでしまへば、だまって居れないで家を新築したり、服装をととのへたりしてしまふものだからね、それを悟りもしないで真面目くさって金をためるためあくせくする人間といふものの心これを太宰さんは、嗤（わら）っているのですよ。そこが又人間の人間らしいところですから太宰さんは、嗤（わら）いつつも人生を愛さずに居られないといったところぢやないでせうか。「歩きながら」おもしろかった。最初の方が非常にいいと思ひました。〇先生との會話、そして末尾のあたりでいかにも人生は浪費だといふ笑い話をひとつ創作すると非常に山のあるいいものになったと思ひます。たゞ「浪費」「浪費」と百ペン言っても他人は納得しないからね。

とにかく、灯は立派なものです。有難うございました。

御けんさんを祈ります

頓首

※ これは灯第十二号（昭和二十二年一月二十日発行）に掲載されたものです。

会員名簿

会長	木村 治利
副会長	沢田 政孝
〃	白川 章一
會計	櫛引 八千代
編集局長	山中 正津
	須崎 正敏
	沢田 薫
	山中 長三郎
	秋元 惣之進
	木下 清一
	木下 俊藏
	原田 万治
	蝦名 健治
	小山内 トモ子
	菊地 美繪
	木下 加津恵
	沢田 スゲ
	吉田 トキ

編集後記

◇ふるさとの「かたりべ」第十二集の発行となりました。

これも、会員各位からお寄せ戴いた玉稿の成果であり、感謝いたしております。

◇また、今回の原稿募集に際しては、一般の方々から沢山の玉稿を賜わり、衷心よりお礼申し上げます。

次集も重ねて、お寄せいただきたく、お願い申し上げます。

◇ある投稿者から、自分のことを書く事は、むづかしい。体裁を考えたり、名譽心があったり、他人の思惑を気にしているからだ。しかし、最近「自分は、この通りの人間だ、見るように見てくれ」と、開き直った気持ちでいる。と、全く同感。

◇自分の主張は正論と決めつけ、他人の意見を無視する人もいる。評して、弱い人間だといわれる。「よ」欲ばりだ。「わ」わがままで「い」威張りたがりやの人です。弱い人にならぬよう心がけ、第十三集に向かって頑張りたい。

（木村）

芦野夢の浮橋

橋の概要

長さ 265メートル
幅 2.4メートル
総工事費 3億3千万円
ため池名称 藤枝ため池

藤枝ため池の沿革

このため池は、江戸時代の元禄年間（1688—1704）津軽藩により、かんがい用に築造された人造湖です。

稲作農家の重要な水源として江戸時代から300年もの間利用されてきて、ため池を中心とする芦野公園は桜祭りなど地域住民の憩いの場として親しまれています。

かたりべ第十二集

発行 平成九年十一月
発行所

わがふるさとを探る会

（電話

発行者 木村治利

編集人 山中正津

印刷所 朝日印刷

五所川原市一ツ谷

（電話三四一三三一六）



伊藤忠吉記念図書館



1090052057